

# 平成27年度 長野県ひとり親家庭実態調査結果

こども・家庭課

## 調査の概要

### 1 目的

県内におけるひとり親家庭の実態を把握し、ひとり親家庭のニーズに対応するためアンケート調査を行い、今後の「子どもの貧困対策」及びひとり親家庭福祉施策の充実のための基礎資料とする。

### 2 調査対象者

ひとり親家庭のうち、児童扶養手当受給資格者（※）

(1) 調査票配布数 18,761 世帯

(2) 調査票回収数 9,350 世帯

内、母子世帯：8,697世帯、父子世帯：614世帯、その他：39世帯

（その他は、祖父母等父母以外の者及び未回答者）

(3) 回収率 49.8 %

### 3 調査時期

平成27年8月1日から8月31日

### 4 調査基準日

平成27年8月1日

### 5 調査事項

(1) 扶養する児童の状況について

(2) 就業状況について

(3) 世帯収入について

(4) 現在困っていることについて

(5) 子育て環境・転居の可能性について

(6) その他

### 6 調査方法

(1) こども・家庭課から市町村に調査票（無記名のアンケート方式）を送付。

(2) 市町村から現況届送付時に調査票を同封し、現況届提出日に回収。

（（※）受給者の所得額：扶養児童が1人の場合230万円未満、2人の場合268万円未満等）

## 結果のポイント

### ひとり親家庭になった理由

「離婚」が母子家庭88.8%、父子家庭85.2%と最も多い。

### 居住形態

父子家庭は自分所有の「持ち家」が39.4%、家族所有の「持ち家」が33.9%と「持ち家」が70%以上を占めているが、母子家庭は家族所有の「持ち家」が37.1%、次いで「公営・公社・公団住宅」が17.4%となっている。

### 勤務形態

父子家庭は「正社員」が56.8%と最も多いが、母子家庭は「正社員」が33.4%、次いで「非正規雇用（フルタイム）」が30.2%、「非正規雇用（短時間勤務）」が18.4%と続き、非正規雇用の合計は48.6%と正社員を上回っている。

### 現在困っていること

母子家庭・父子家庭ともに「子どもの将来（進学等）」のことで困っている。

### 子育ての中で特に大変なこと

母子家庭・父子家庭ともに「将来の進学のための学費の貯金等」と「生活費全般の確保」が高い割合を占めている。

### 子育て支援・学習支援等に関する行政への要望

母子家庭・父子家庭ともに「制度資金、奨学金の拡充（返済不要なもの等）」と「児童扶養手当の増額」が高い割合を占めている。

### 子育て環境のポイント

母子家庭・父子家庭ともに「暮らしやすさ・生活費の安さ」と「条件のいい仕事に就けること」が高い割合を占めている。

### 転居の可能性と転居できない理由

母子家庭は「転居してもよい」が37.6%、「転居できない」が26.8%、父子家庭は「転居してもよい」が29.0%、「転居できない」が38.9%と意見が割れている。

転居できない理由として、母子家庭は「子どもを転校させたくない」が40.9%と最も多く、父子家庭は「持ち家である」が43.5%と最も多くなっている。

## 調 査 結 果

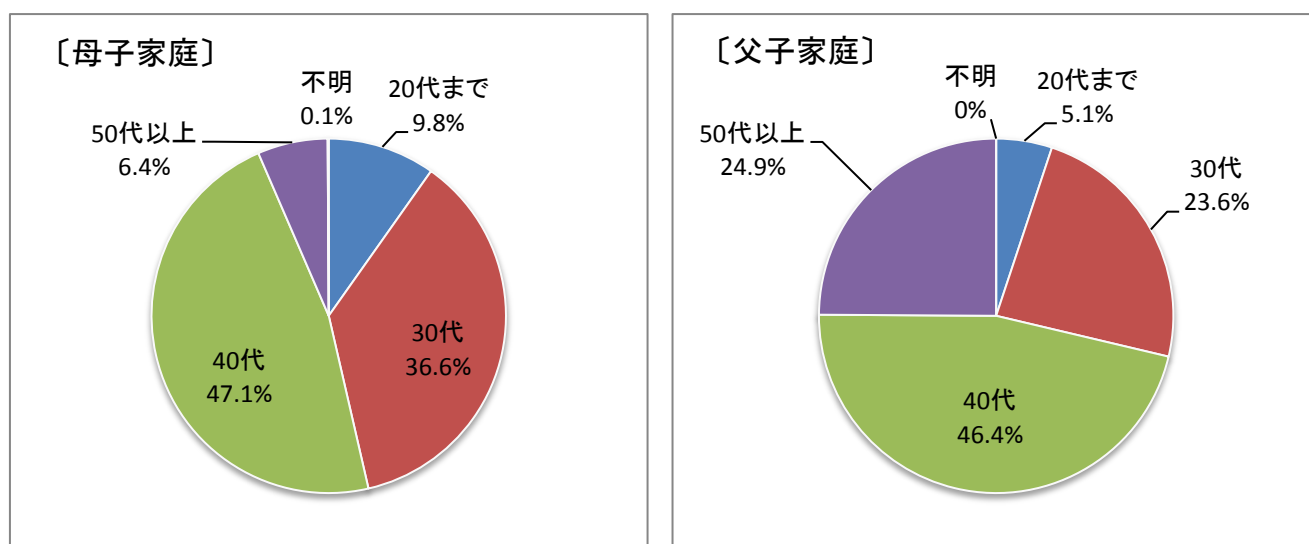
Q. あなたとお子さんとの関係についてお答えください。

| 区 分  | 総 世 帯 数              | 調 査 票 配 布 数 | 回 答 数   | 回 答 率 |
|------|----------------------|-------------|---------|-------|
| 母子家庭 | 23,630世帯 (H27.6.1現在) | 17,455世帯    | 8,697世帯 | 49.8% |
| 父子家庭 | 3,216世帯 (H27.8.1現在)  | 1,263世帯     | 614世帯   | 48.6% |

### 回答者の状況

母子家庭の母は「40代」が47.1%と最も多く、次いで「30代」が36.6%となっている。  
 父子家庭の父は「40代」が46.4%と最も多く、次いで「50代」が24.9%「30代」が23.6%となっている。

Q. あなたの現在の年齢はおいくつですか。



### 子どもの状況

「小学生」が母子家庭・父子家庭ともに32.8%と最も多い。

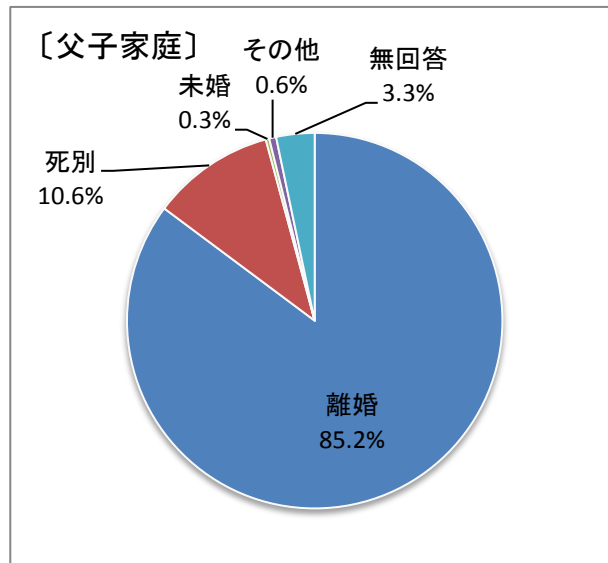
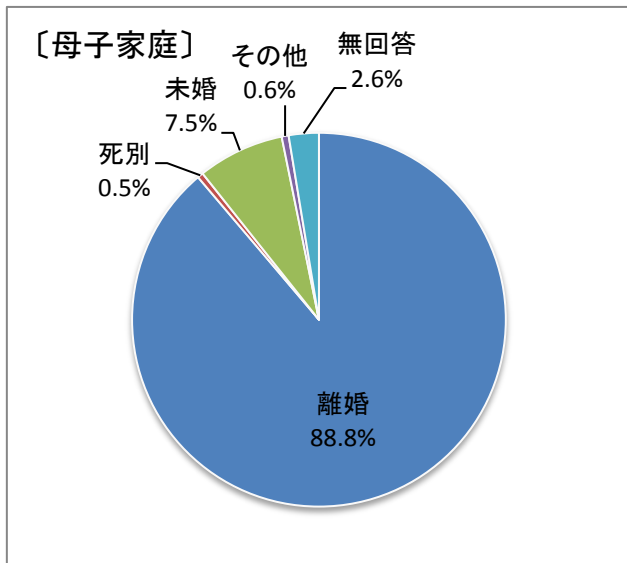
Q. 同居のお子さん（20歳未満）の状況について、年齢別学年別の人数を下の表にご記入ください。

| 区 分  |        | 未就学児 | 小学生  | 中学生   | 高校・高専生 | 専門学校・各種学校・短大・大学生 | 就労者   | その他 | 合 計   |
|------|--------|------|------|-------|--------|------------------|-------|-----|-------|
|      |        | 母子家庭 | 人数   | 2,239 | 4,460  | 3,076            | 3,027 | 334 | 342   |
|      | 割合 (%) | 16.4 | 32.8 | 22.6  | 22.3   | 2.5              | 2.5   | 0.9 | 100.0 |
| 父子家庭 | 人数     | 75   | 326  | 251   | 262    | 29               | 34    | 16  | 993   |
|      | 割合 (%) | 7.6  | 32.8 | 25.3  | 26.4   | 2.9              | 3.4   | 1.6 | 100.0 |

### ひとり親家庭になった理由

「離婚」が母子家庭88.8%、父子家庭85.2%と最も多い。

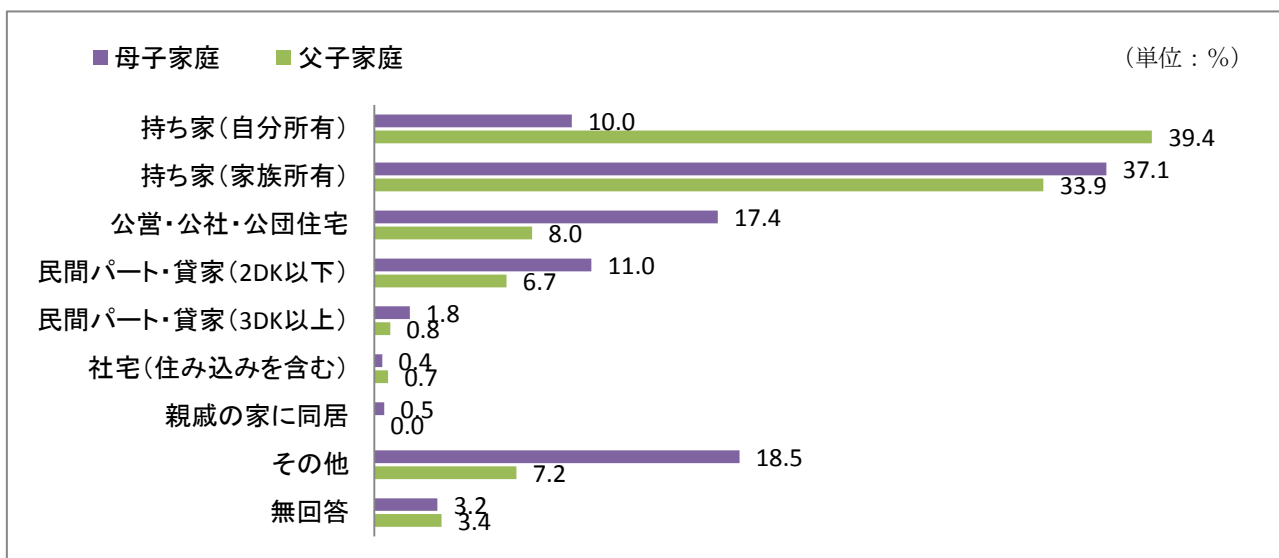
Q. ひとり親家庭になった理由は何ですか。



### 住居形態

父子家庭は自分所有の「持ち家」が39.4%、家族所有の「持ち家」が33.9%と「持ち家」が70%以上を占めているが、母子家庭は家族所有の「持ち家」が37.1%、次いで「公営・公社・公団住宅」が17.4%となっている。

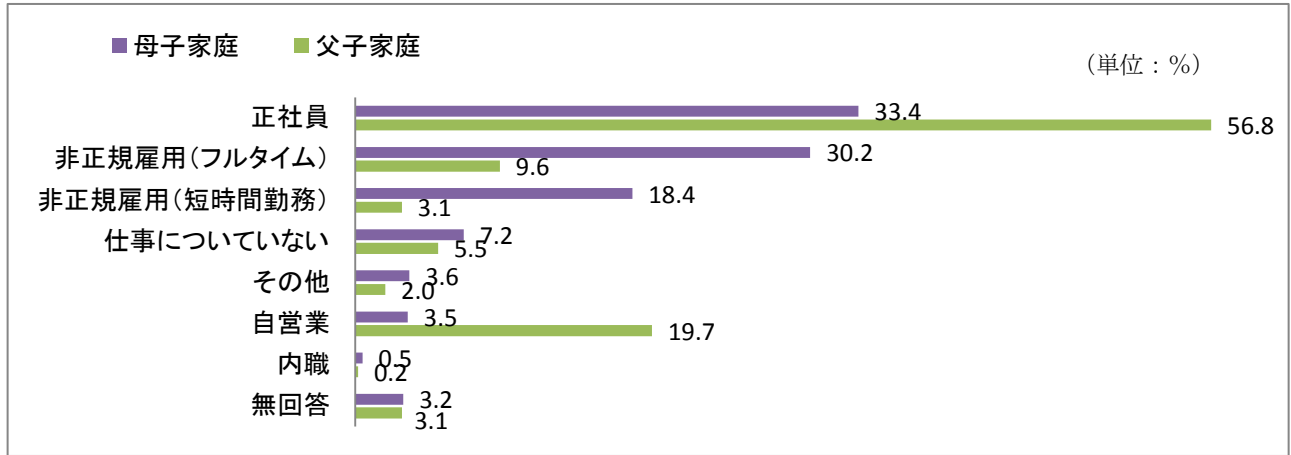
Q. あなたのお住まいに当てはまるものを、次のうちから選んでください。



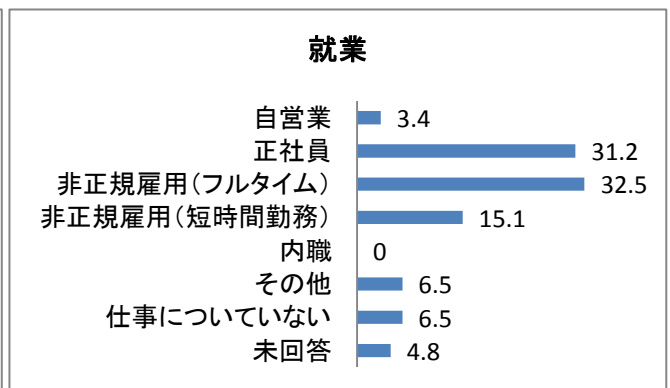
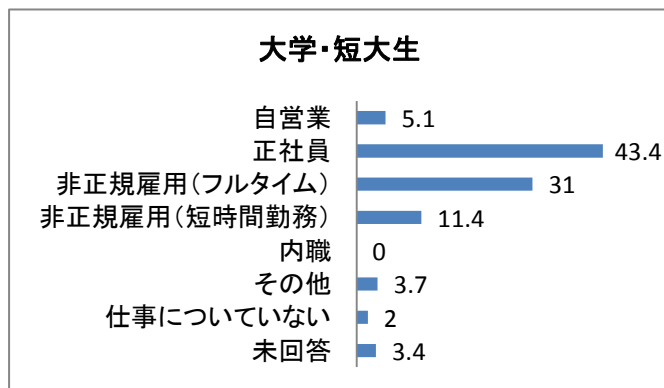
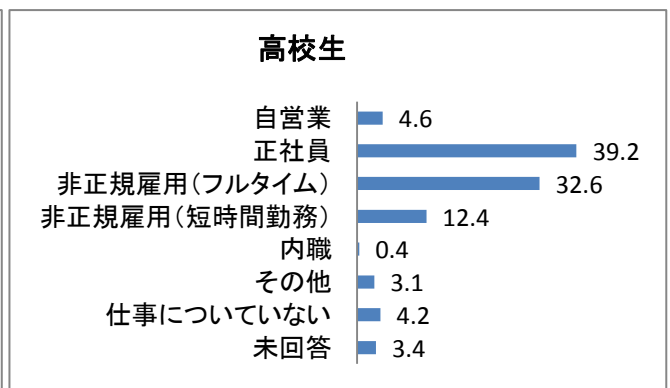
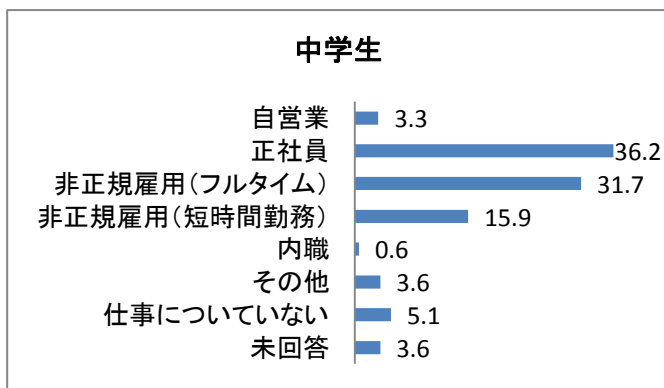
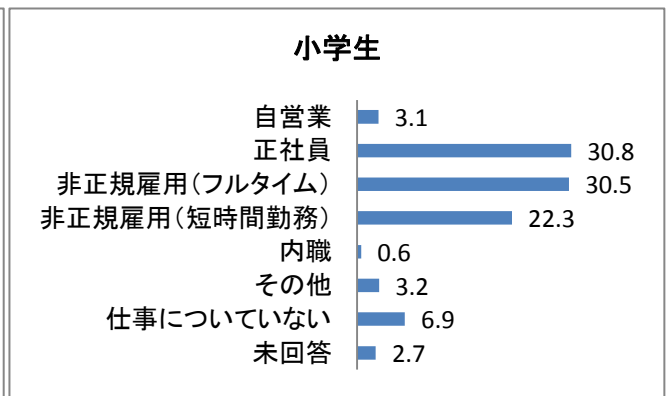
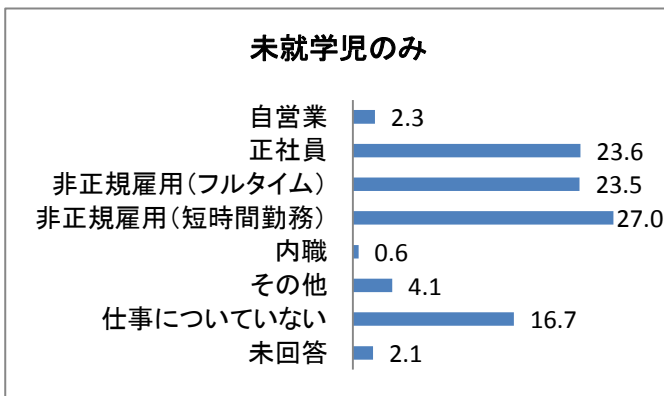
## 勤務形態

父子家庭は「正社員」が56.8%と最も多いが、母子家庭は「正社員」が33.4%、次いで「非正規雇用（フルタイム）」が30.2%、「非正規雇用（短時間勤務）」が18.4%と続き、非正規雇用の合計は48.6%と正社員を上回っている。

- Q. あなたのお仕事について、次のうちどれが最もあてはまりますか。  
(2種類以上の仕事をしている場合は、最も収入の多いものをお答えください。)



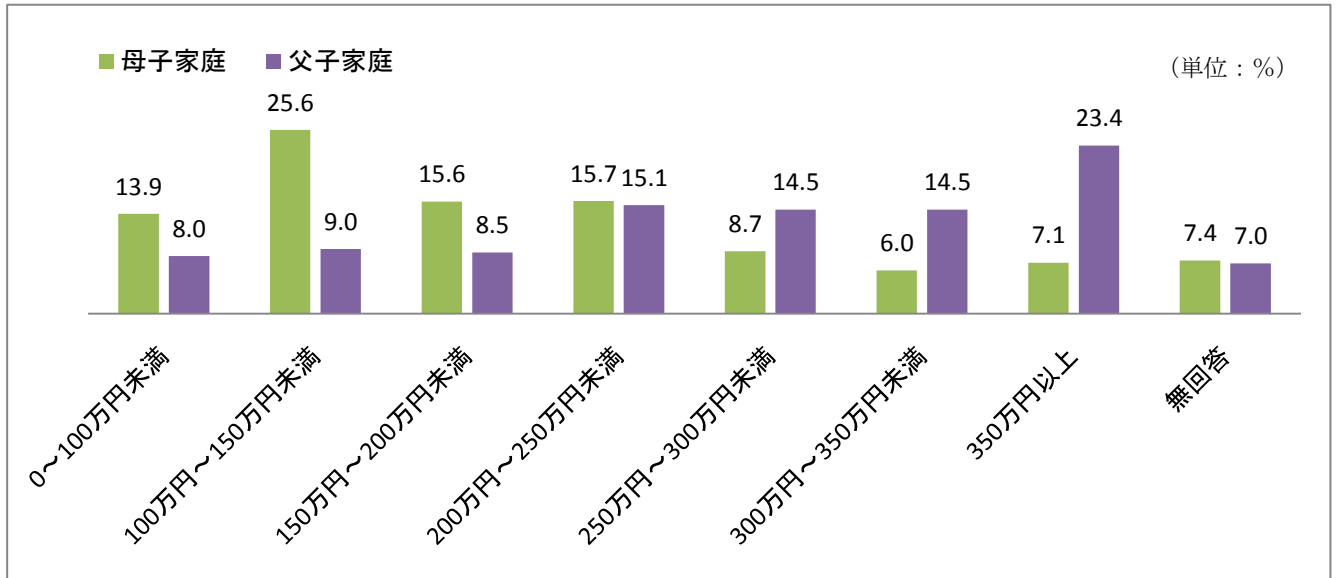
## 母子家庭の第1子の年齢別、母の勤務形態



## 世帯の年間総収入

児童扶養手当受給資格者の母子家庭は「100万円～150万円未満」が25.6%と最も多く、次いで「200万円～250万円未満」が15.7%であるが、「250万円未満」が全体の70.8%を占めている。  
父子家庭は「350万円以上」が23.4%と最も多く、「200万円」以上が全体の67.5%を占めている。

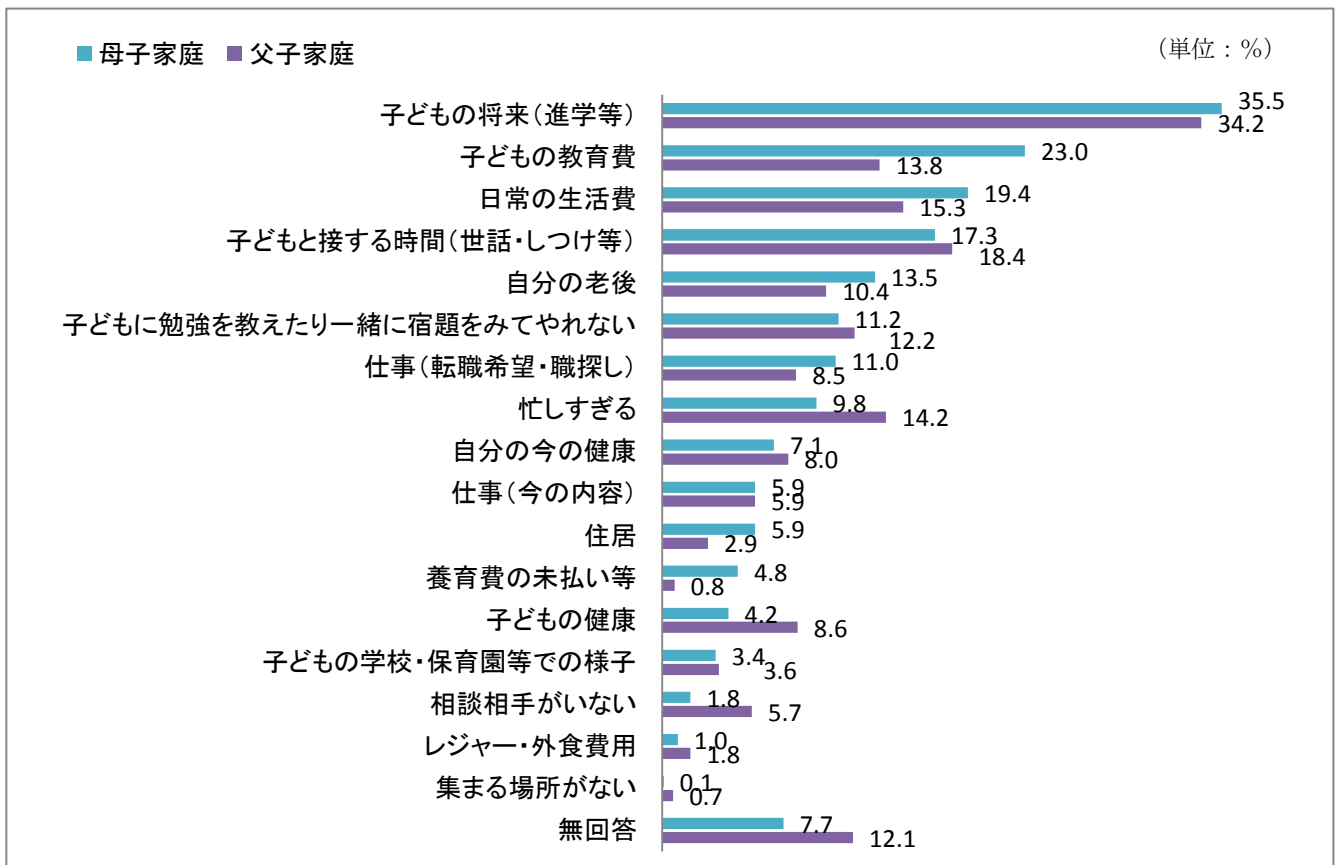
Q. あなたの世帯の平成26年1月1日から12月31日までの1年間の総収入額はいくらですか。



## 現在困っていること

母子家庭・父子家庭ともに「子どもの将来（進学等）」のことで困っている。

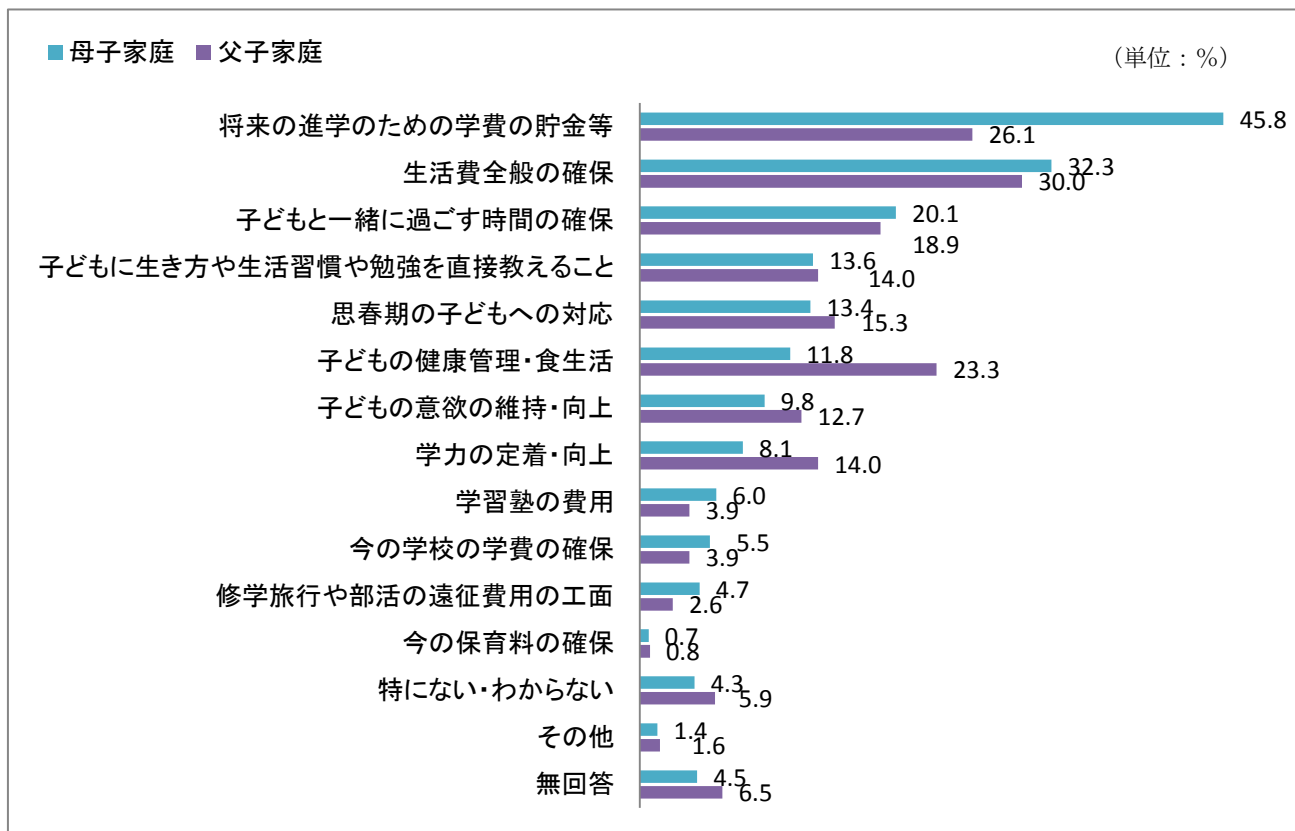
Q. 現在特に困っていることについて、次の中から2つ以内でお答えください。（複数回答）



### 子育ての中で特に大変なこと

母子家庭・父子家庭ともに「将来の進学のための学費の貯金等」と「生活費全般の確保」が高い割合を占めている。

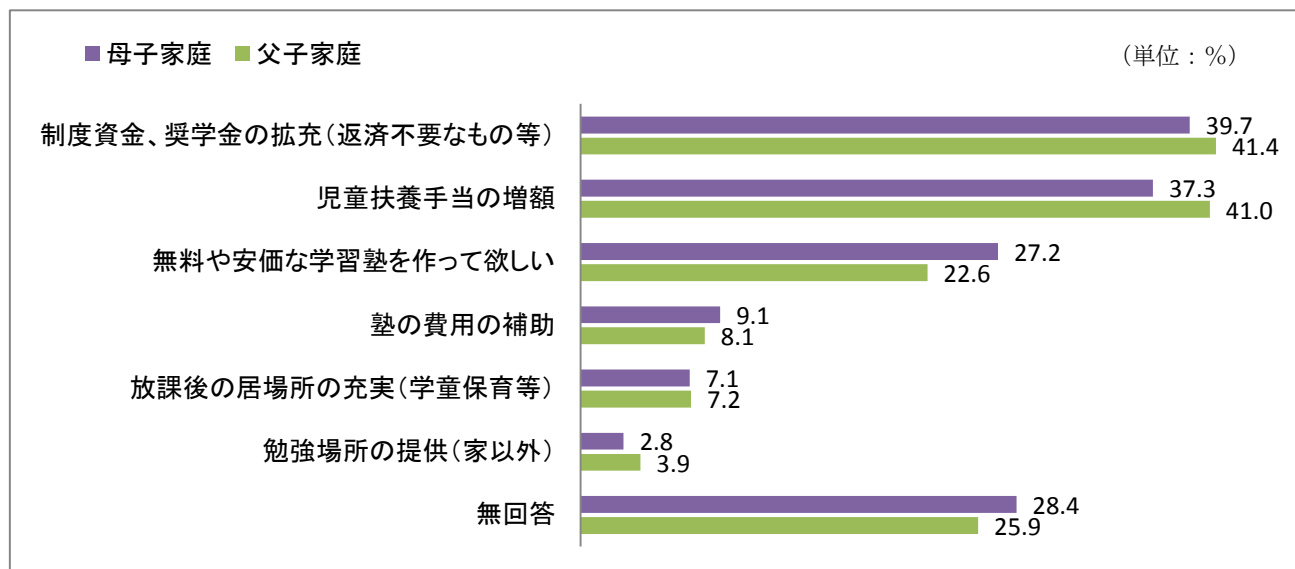
Q. あなたにとって、子育ての中で特に大変なことは何ですか。次の中から2つ以内でお答えください。  
(複数回答)



### 子育て支援・学習支援等に関する行政への要望

母子家庭・父子家庭ともに「制度資金、奨学金の充実（返済不要なもの等）」と「児童扶養手当の増額」が高い割合を占めている。

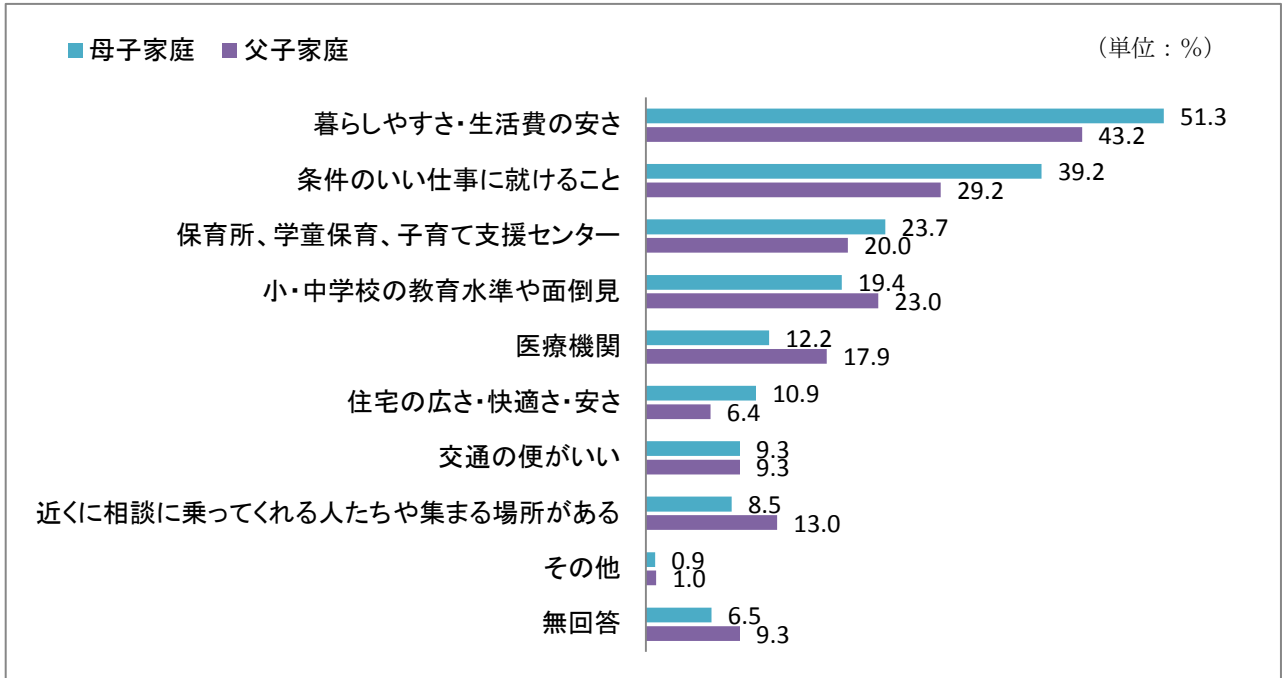
Q. 小学生以上のお子さんのいる家庭で、子育て支援・学習支援に関する行政への要望事項について、次の中から2つ以内を選んでください。(複数回答)



### 子育て環境のポイント

母子家庭・父子家庭ともに「暮らしやすさ・生活費の安さ」と「条件のいい仕事に就けること」が高い割合を占めている。

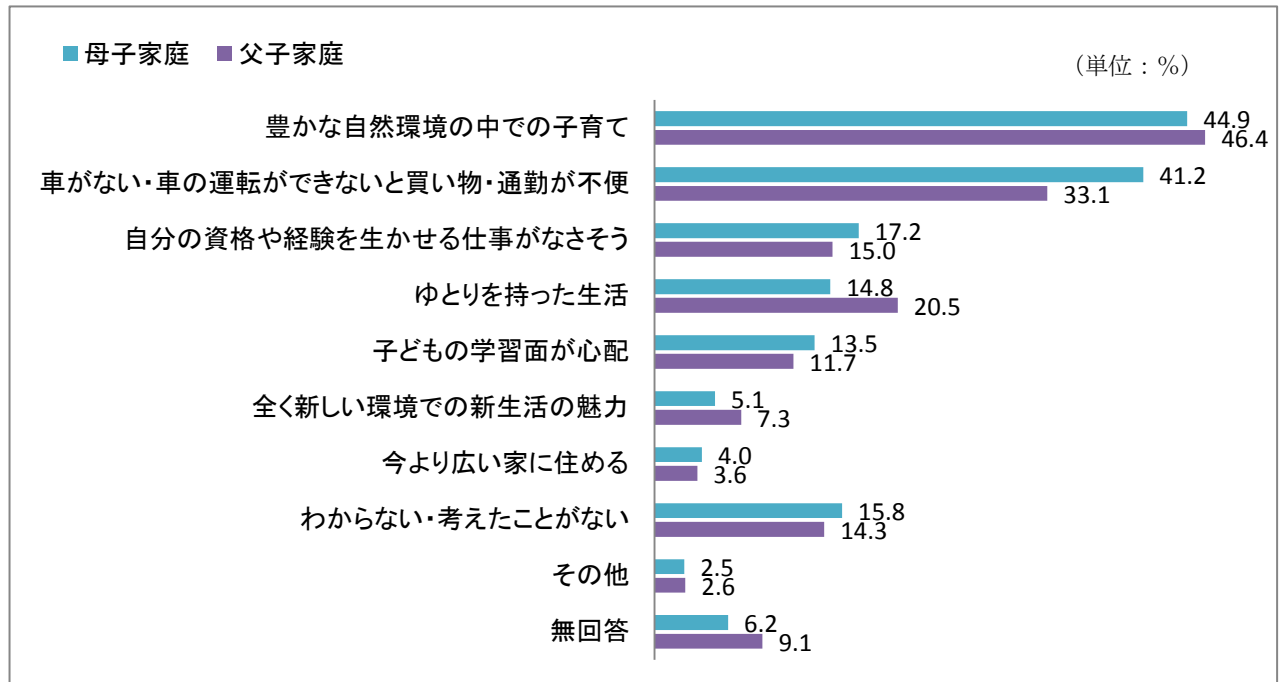
Q. 子育てをする環境について、どんなことがポイントになりますか。次の中から2つ以内でお答えください。（複数回答）



### 田舎地域の子育ての印象

母子家庭・父子家庭ともに「豊かな自然環境の中での子育て」と「車がない・車の運転ができないと、買い物・通勤が不便」が高い割合を占めている。

Q. 例えば、田舎地域（いわゆる山間地域）での子育てについて、どんな印象をお持ちですか。次の中から2つ以内でお答えください。（複数回答）

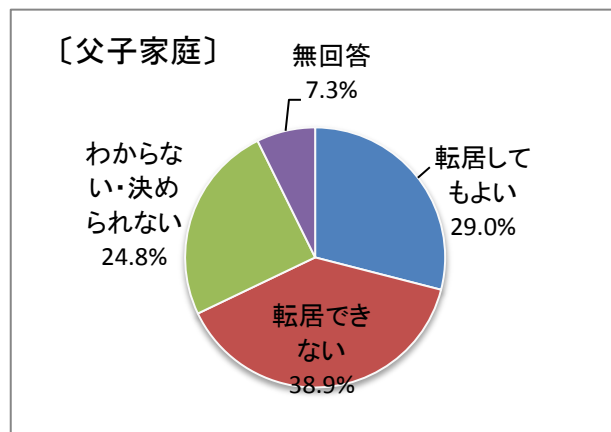
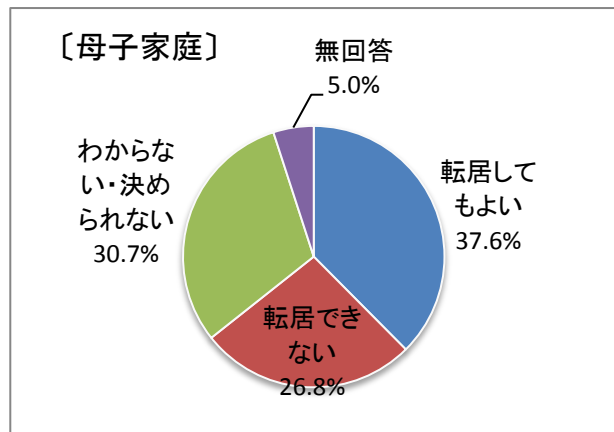




### 転居の可能性

母子家庭は「転居してもよい」が37.6%、「転居できない」が26.8%、父子家庭は「転居してもよい」が29.0%、「転居できない」が38.9%と意見が割れている。

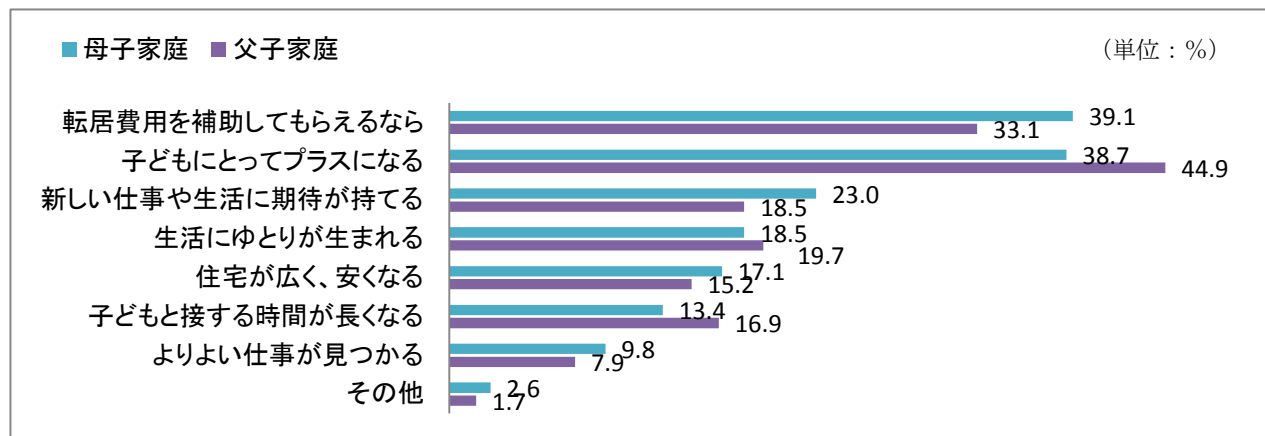
Q. 子育てのために住むところを選べるとしたら、条件が合えば転居をしてもよいですか。



### 転居してもよい条件

母子家庭・父子家庭ともに「転居費用を補助してもらえるなら」と「子どもにとってプラスになる」が高い割合を占めている。

Q. 「転居してもよい」と答えた方はその条件を、2つ以内でお答えください。（複数回答）



### 転居できない理由

母子家庭は「子どもを転校させたくない」が40.9%と最も多く、父子家庭は「持ち家である」が43.5%と最も多くなっている。

Q. 「転居はできない」と答えた方はその理由を、2つ以内でお答えください。（複数回答）

